

サラリーマン人生を通し伝えたいこと

経営トップ講義

@県立大 2019~20

「ビジネス経済の実践」要旨

12



「どんなことにも一生懸命に取り組み」で、「必然になる」と話す
九州代表取締役社長 間嶋力彦氏(山下哲嗣撮影)

九州テン代表取締役社長

間嶋 力彦氏(65)

神戸市の出身だ。1973年に富士通に入社し、多重無線のシステム設計や海外の移動通信ビジネスに従事。2013年に九州テンに赴任し、14年から社長を務めている。1967年にエコー電子工業の修理、製造部門を切り離して設立した。本店は佐世保市小佐々町、本社は福岡市博多区にある。18年度の年商は184億円。株主は富士通、デンソーテン、エコー電子工業だ。

設立当初から無線機の修理、製造を手掛け、95年には移動端末関連機器の設計、製造を開始。05年からはドライブレコーダーの生産を始め、現在は売り上げの大部分を占めている。今は好調だが、未来永劫(えいごう)続くビジネスはない。好調なときにこそ、次のビジネスを準備する

ことが大事だ。開発から製造、保守サポート、修理まで全てできるのが強みだ。自社商品の開発にも力を入れ、15年から医療機器管理システムを販売。九州・沖縄の国立大病院の半数が導入している。16年からはIoTゲートウェイの販売を始めたが、売り上げは期待通りが役に立った。

偶然を必然に変える

失敗もあった。自治体の防災無線の案件で、マイク口波の中継所を建設する際、電力会社の電波を遮断する場所に建ててしまった。しかし、中継所を移動させる方法を思い付き、事なきを得た。問題をスムーズに解決できたことが評価された。

40歳で移動通信部門に移り、グローバルビジネスの開拓のために海外で仕事をした。英語は苦手だったが、逃げずに挑戦。コロナやミャンマー、中国などで事業を成功させた。

振り返ると、山岳部、防災無線の失敗、グローバルビジネスの挑戦が、全て今につながっている。これは偶然ではなく、どんなことにも一生懸命に取り組んだことで、必然になった。何をすべきかを常に考え、目標を持って頑張っ

てほしい。
(湯村高大)
次回(28日)に掲載します